

# 八代海におけるノリ養殖生産に及ぼす色落ちの影響について

- 安定生産を目指して -

浅海干潟研究部 松尾 竜生

## はじめに

近年、八代海（不知火海）のノリ養殖漁場では、早期に色落ちが発生し、ここ数年の収量は大きく減少し、生産者は厳しい漁家経営を強いられている。今後、八代海のノリ養殖生産者が安定的に生産していくためには、品質向上はもちろんのこと、収量確保に向けて何らかの対策が必要であると言える。そこで、近年の各種調査結果を用いて八代海のノリ養殖に与える影響について検討した。

## 調査の概要

平成8年度～平成17年度（項目によっては欠測期間あり）のノリ漁期期間中に、八代海のノリ養殖漁場で行われた各種調査結果、県漁連等で行われた入札結果等に基づいて、ノリ養殖漁場の分析を行った。

## 調査の結果

近年の八代海の作柄は、平成13、14年度の2年間は一部の地域を除いて豊作だったものの、平成15年、16年度は、ほとんどの漁場で凶作だった。平成17年度は、有明海では、漁期始めの高水温採苗による被害があったものの、その後は気象、海況に恵まれ豊作となったが、八代海では、各漁場でやや不作～凶作となり全体でも不作だった。また、各年度の色落ち状況を見てみると、平成13年度は2月中旬に、平成14年度は1月中旬に、平成16年度は1月上旬に、平成15、17年度は12月下旬にそれぞれ色落ちが確認されており、早期色落ち傾向は、年々強まっていると推察される。

平成8～17年度の漁場環境等（降水量、日照時間、水温、栄養塩量、プランクトン沈澱量、あかぐされ病の病勢、色落ち状況等）の推移を漁期毎に見ると、プ

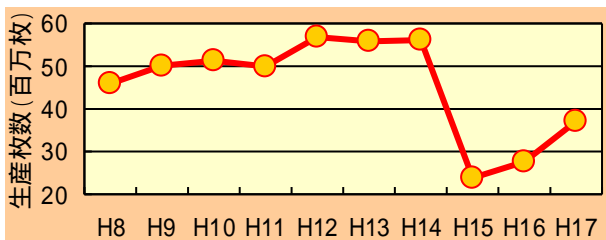


図1 平成8～17年度の八代海におけるノリ養殖の生産枚数の推移

ランクトン沈澱量については色落ちへ影響を与えるとされる5 ml/100L を超えると、ノリの色落ちが発生することが多く、プランクトン沈澱量の急増によって、色落ち被害の程度も大きくなる傾向が認められた。また、近年は年明け以降にプランクトン沈澱量が急増し、窒素量が減少した後も、プランクトン沈澱量が大きく減少しない傾向があった。

## まとめ

八代海における近年の不作は、栄養塩量の低下に伴う早期色落ちによることが原因の一つとしてあげられ、栄養塩量の低下は、年明け以降にプランクトン量が増加するためであることが示唆された。八代海のノリ養殖漁場は、湾奥部に位置しており、北風の影響を受けにくいと、一旦増殖したプランクトンは解消しにくいと思われる。また、年明け以降に降雨などによって一時的な栄養塩の回復があっても、プランクトンが多い場合は栄養塩が極端に吸収されて、ノリに十分な栄養塩が供給されない可能性がある。

今後は、八代海湾奥部の限られた栄養塩を有効に利用するため、プランクトンの増殖を抑える何らかの方策を模索しつつ、効率的な養殖生産が行えるような養殖技術の開発が必要である。

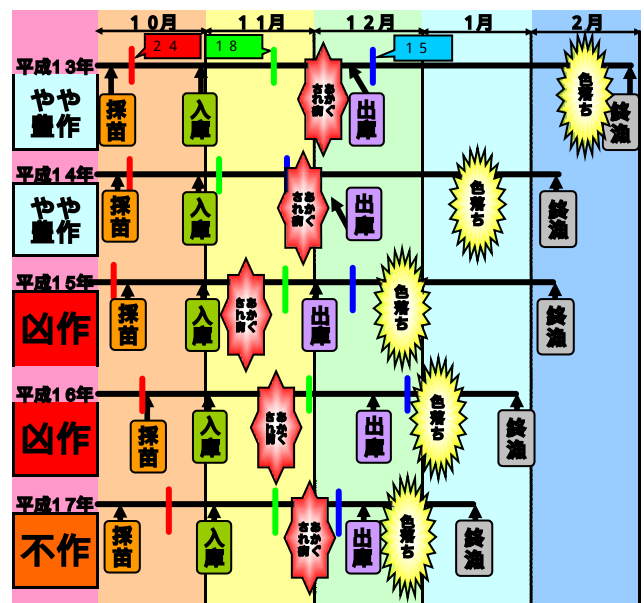


図2 平成13～17年度の八代海におけるノリ養殖の概況